

長野県病害虫防除研修会に参加しました (Vol. 15 令和7年2月)

南信農業試験場では、病害虫対策の研究にも取り組んでいます。そこで、2月25日に長野県教育総合センター（塩尻市）にて長野県病害虫防除所が開催した「長野県病害虫防除研修会」に参加し、当场からはナシ黒星病対策の取組について発表しました。本研修会にはJ Aや県農業農村支援センターなどの技術者のみならず、生産者の皆様も含めて130人程が参加されました。

基調講演として、昨年に多発した果樹カメムシ類をテーマに、明治大学 糸山 亨 教授から「カメムシ類の発生生態と防除一生態を知って対策を考える」と題し、果樹カメムシの基礎的な生態からカメムシ増加の背景、温暖化が害虫発生に及ぼす影響、カメムシの防除対策について講演されました。

続いて、果樹試験場からは「温暖化が果樹害虫の発生に及ぼす影響」と題し、りんごの主要害虫であるモモシクイガなどの発生の変化について。また、当场からは「日本なしにおけるナシ黒星病の特徴と防除対策」と題し、令和6年の発生状況と薬剤抵抗性の発達状況、そして新規系統の殺菌剤を主軸とした防除体系の取組み状況について発表しました。そして、病害虫防除所からは、今後発生が懸念される果樹の病害虫と、本県への侵入に注意が必要な新規病害虫について報告がありました。

多くの質問が出されて活発な意見交換が行われ、参加者の関心の高さを感じる研修会となりました。温暖化が進むなか、本研修の内容が活かされ、実り豊かな年になることを願っています。



会場の様子（県総合教育センター）